

自公の悪政で 医療と介護が遠くなる

75歳以上の高齢者だけを対象にした後期高齢者医療制度が来年4月から実施されようとしています。高過ぎる保険料の年金からの天引き、払えなければ保険証を取り上げるやり方に、大きな不安が広がっています。また、療養病床の大幅削減は、医療と介護がさらに遠くなるものです。このまま実施されては大変です。

75歳以上 保険料・月8583円、年金天引き
後期高齢者 来年4月実施は中止を
医療制度

23万床減らすなんて、ひどすぎる
療養病床の削減やめよ

後期高齢者医療の充実を求める意見書、および、療養病床削減の中止の意見書の提出を求める請願が、市議会に提出されています。

高齢者の痛みと負担の軽減を求める内容です。ところが、10月18日に行われた厚生文教委員会（佐藤清和委員長）では、ゆいかんじ議員（日本共産党）が採択に賛成しましたが、ほかの議員は全員反対し、請願は不採択となりました。12月議会の本会議では、なんとしても採択できるようにがんばります。

請願審査では、川上直喜議員が紹介議員として主旨説明を行い、後期高齢者医療制度と療養病床の削減がこのまま進めば、大変な事態になるのは明らかで、住みよい

「国に意見書を」市民の請願 厚生文教委が不採択

まちづくりに大きな障害になるとして、賛同するよう訴えました。

審議では、公明党の委員が「国の財政負担を引き上げはどの程度を考えているか」との質問があっただけです。各委員からは、不採択する理由は出されませんでした。ゆいかんじ議員は、賛成討論をしました。

採択に賛成した委員

ゆいかんじ（日本共産党）

採択に反対した委員

秀村 長利

江口 徹

梶原 健一

八児 雄二（公明党）

田中 博文

田中 広文

木下 昭雄

（敬称略）